

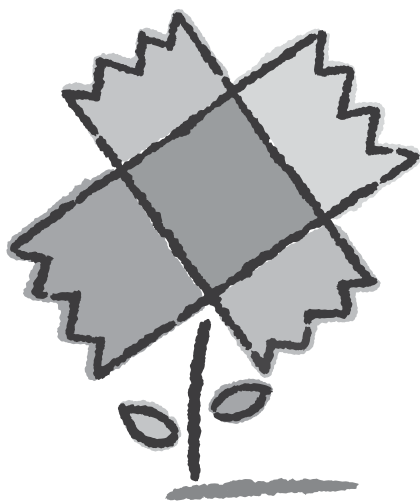
地域包括ケアの 進化

社 会保障と税の一体改革の一環として、医療・介護の制度改革が本格化してきました。このたびの改革では「地域医療構想」と「地域包括ケアシステム」が重要なキーワードとされており、これらに対する適切な対応が地域の公衆衛生行政の喫緊の課題となっています。

このうち地域包括ケアについては、1970～80年代の広島県御調町（現在の尾道市）における町行政と医療福祉施設の連携による取り組み（地域包括医療ケア）が原点と言われておりますが、その概念が全国的に認識されたのは介護保険制度の創設後でした。特に2008年以降は、地域包括ケアの概念が膨らみを増しながら進化を続けており、来るべき超高齢多死社会を迎えても、生きがいを持って安心して住み続けることができる「地域づくり」に発展しつつあります。

地域包括ケアでは、「住み慣れた地域で…」が大前提と思っていました。しかし、大都市圏における後期高齢者の急増予測などを受け、大都市圏から地方への移住に地域包括ケアの機能を付加した新しい地域づくりとして日本版 CCRC (Continuing Care Retirement Community) 構想が提唱されていますが、これも進化の一つかもしれません。

そこで本特集では、進化を続ける地域包括ケアに焦点を当て、これまでの進化の経緯や将来像、地域包括ケアに関連した最近の課題、および公衆衛生従事者向けの提言などを含めて、それぞれご専門の立場からおまとめいただきました。



イラストレーション：ペドロ山下